



未来を夢見て Season 2

2021/10/27 No. 105

考え、議論する「特別の教科 道徳」の時間の実践 ～1年生「こころのはっば」を参観して～

10月27日（水）。1年1組の後藤愛恵先生の学級で道徳の授業研究（中堅教員研修）が行われました。教室に何うと、子供たちはきちんとした姿勢で、道徳のノートに学習課題を丁寧に書いていました。授業は、愛恵先生が作成した「紙芝居」で進められます。デジタル教材に慣れているので、非常に斬新で、子供たち以上に私が惹きつけられました。また、先生の朗読も優しく温もりがあり、どんどん子供たちが資料の中に惹きつけられていることが伝わってきます。



展開では、いのししくんの「友達が欲しいな」と言ったときの「こころのはっば」の色を考えます。紙芝居でも無色のはっばが用意されていて、子供たちから（おや？）という声が上がります。子供たちは、いのししくんの寂しい気持ちや心細い気持ちを想像して、一生懸命色を考えます。そして、自分の考えを堂々と発表します。先日の職員会議で、愛恵先生から資料提示していただいた「p4c」の実践で大切にされている「セーフティ」が教室の中にあって、「否定されない」「馬鹿にされない」「みんながちゃんと聞いてくれる」という空気に包まれていることがよく分かります。

授業の終末では、子供たちに「友達がいてよかった」と思った経験を1年1組のこころのはっばの形のワークシートに書かせます。書けない子への支援が本当に見事で、間違っただけの子には先生自ら消しゴムで消してやり、子供たちと対話しながら、どの子も書くことができるように指導されて居る様子が印象的でした。



さて、道徳でもう1つ。今週の月曜日、3年4組の宮崎先生の学級でも道徳の授業を参観させていただきました（初任研の研修の1つ）。価値の葛藤場面の取り上げ方が見事で、宿題を忘れた友達に答えを「教える」「教えない」で類型化されて熱心な話し合いが行われていました。

2つの道徳の授業を見せていただいて、共通しているのは、お二人の先生方が子供たちのことをよく分かっている、子供たちにしっかり考えさせよう、という姿勢です。昔先輩から、「道徳と特活は畑の土（学級経営）と同じ。いくらよい苗（研究）を植えても、土が悪ければ苗は育たない」と教えられたことを思い出しました。小野小学校の校内研究の充実は、このような道徳の時間を大切にしている先生方の姿勢からも伝わってくるのではないのでしょうか。

（文責：手代木）